

浦安鐵鋼団地景況実感調査結果表
(平成22年3月分)

ご協力ありがとうございました。平成22年3月分の結果をお送りいたします。よろしくご査収ください。

調査対象 168社 回答 159社 回答率 94.6%

調査項目	前 月 比					計	前 年 同 月 比					計
	10%以上 増加・上 昇・好況	やや 増加・上 昇・好況	横這い ・平常	やや 減少・下 降・不況	10%以上 減少・下 降・不況		10%以上 増加・上 昇・好況	やや 増加・上 昇・好況	横這い ・平常	やや 減少・下 降・不況	10%以上 減少・下 降・不況	
売上数量	35社 22.3% (13.4)	39社 24.8% (23.6)	54社 34.4% (39.5)	15社 9.6% (16.6)	14社 8.9% (7.0)	157社	46社 29.7% (22.7)	26社 16.8% (9.7)	32社 20.6% (22.1)	20社 12.9% (18.2)	31社 20.0% (27.3)	155社
売上高	38社 24.1% (16.5)	39社 24.7% (20.3)	49社 31.0% (38.6)	19社 12.0% (19.0)	13社 8.2% (5.7)	158社	35社 22.4% (15.4)	25社 16.0% (7.1)	29社 18.6% (21.2)	27社 17.3% (22.4)	40社 25.6% (34.0)	156社
在庫数量	10社 6.6% (2.0)	32社 21.2% (16.6)	67社 44.4% (47.7)	36社 23.8% (28.5)	6社 4.0% (5.3)	151社	6社 4.0% (5.4)	23社 15.4% (4.1)	40社 26.8% (24.5)	35社 23.5% (21.8)	45社 30.2% (44.2)	149社
販売単価	4社 2.6% (0.0)	40社 26.1% (9.9)	93社 60.8% (69.1)	14社 9.2% (19.7)	2社 1.3% (1.3)	153社	10社 6.6% (2.0)	16社 10.6% (8.1)	36社 23.8% (21.5)	34社 22.5% (20.8)	55社 36.4% (47.7)	151社
収益状況 (粗利)	20社 12.7% (10.2)	35社 22.3% (12.7)	68社 43.3% (45.9)	19社 12.1% (21.7)	15社 9.6% (9.6)	157社	33社 21.3% (17.9)	22社 14.2% (7.9)	41社 26.5% (20.5)	21社 13.5% (21.2)	38社 24.5% (32.5)	155社
稼働率 (生産・加工設備)	11社 8.6% (4.6)	24社 18.8% (17.6)	63社 49.2% (47.3)	16社 12.5% (23.7)	14社 10.9% (6.9)	128社	26社 20.6% (13.4)	16社 12.7% (11.0)	48社 38.1% (27.6)	17社 13.5% (23.6)	19社 15.1% (24.4)	126社
入出庫の トラック台数	18社 12.0% (3.4)	30社 20.0% (17.0)	68社 45.3% (53.7)	23社 15.3% (19.7)	11社 7.3% (6.1)	150社	23社 15.6% (11.2)	27社 18.4% (12.6)	52社 35.4% (35.0)	21社 14.3% (20.3)	24社 16.3% (21.0)	147社
現在の景況感	1社 0.6% (1.3)	22社 14.2% (3.9)	54社 34.8% (29.0)	21社 13.5% (23.2)	57社 36.8% (42.6)	155社	7社 4.8% (1.4)	29社 19.7% (12.2)	34社 23.1% (21.6)	25社 17.0% (20.3)	52社 35.4% (44.6)	147社
3ヶ月後の 景況予測	1社 0.6% (0.6)	12社 7.8% (6.5)	55社 35.7% (27.9)	31社 20.1% (21.4)	55社 35.7% (43.5)	154社						
特記事項	今月も各品種の〔特記事項〕が数多く寄せられましたので、別送にてお知らせいたします											

- 注 ①調査対象会社数は浦安に事業所の無い会社（不在地主など）は除外してあります
 ②()内の数字は前月のパーセントです
 ③結果表は全品種の動向として集計し、品種別の要因を取り上げる必要がある場合は
 特記事項欄に別途記載いたします
 ④本調査の宛先等の変更は、浦安鐵鋼団地協同組合事務局までご連絡ください
 事務局 TEL：047-350-5311 FAX：047-350-5316

景況実感調査(3月) 特記事項

毎月、景況実感調査にご協力頂きましてありがとうございます。集計結果は別紙にてお送りしましたが、今月もたくさんのコメントを頂きましたのでお送りします。ご査収下さい。

[お断り]毎月のコメントはあくまで個々の“生の声”です。業界全体の標準的見解とは、若干異なる場合もあります。また、不適切な表現やわかりにくい表現については書き直しております。信用問題にかかわるものも原則として掲載しておりません。

薄板・表面処理鋼板

- ① 仲間筋の仮需により売上増となったが、ユーザー向けは相変わらず低調。4～6月は一段と仕事が冷え込む模様である。値段は仕入れがジリ高になってきたが、売値はそれ以下である。
- ② 市中の品薄と高炉の値上げにより仮需が発生しているが、3ヶ月先の仕入れ値が明確にならない状態なので、契約を増す訳にはいかず、継続してタイト状態が続くと思われる。他社の動向などを気にして値上げを躊躇すれば、赤字幅を広げることになるので、仕入れ値上げ分の早期転嫁は必須となる。
- ③ 値上げがらみ、期末ということもあってか、加工量としては想定外の増加であった。
- ④ 市中在庫も低位のせい、思惑買いも3月末で一巡し、静かな一週間。次回入荷予定の引合のみの商いで、当用買い主体。直需はますます紐付化が進行し、マーケットの縮小が顕在化している。建材向けや他の末端ユーザーと仲間取引は多少高値取引が継続するが、需要家への価格ヘッジは道が遠い。
- ⑤ 在庫が低水準で推移している中で大幅なメーカー値上げは、在庫の新価格への切り換えが早く、流通においては荷動きの動向にかかわらず、早急な価格転嫁を迫られている。市況は上がり基調の展開必至となるが、ユーザー向けの値上げは難航が予想される。
- ⑥ メーカー値上げに対してマーケットが追いついていけない。需要が少ない状態での値上げのため、与信管理を更に厳しくする必要がある。
- ⑦ 3月は材料の先高感から、前倒し手配気味の需要増が見られ、生産増となった。一方で、一部鋼種には入手が一気に困難なものも出始め、併せ価格は引き上げられ出した。なお、市場環境は建築関係の確認件数、交付件数の伸びも継続していることから、実需回復への胎動が出てきた。
- ⑧ 期末と値上げ発表が重なり、荷動きの変化に注意していたが、実需が無く、手当てするにも玉も無く、馬なりで価格改定を迎えるしかない。2年前のエレベーター相場というアツモノに懲りて、ナマスを吹くではないが、国内需要が落ち込んだままの中での値上げ実施は、流通、需要家の事業継続の道を閉ざすことになりはしないか。メインバンクの情報では、2月ひと月の新規借り入れの申込み件数は、モラトリアム法案の実施の影響か、12か月分(1年分)の件数と同じ位になったという。資金繰りの悪化が見て取れる。

中板

- ① 2月の販売量は前月比で増となる。東京製鐵の連続大幅値上げと高炉メーカーの値上げが仮需に拍車を掛けているが、実需は依然として低調にて推移。コイルの入荷が少ない中、在庫が一気に減少しており、市況上昇の一因にもなっている。足下の市況は採算確保ができていないが、高値のコイルが入荷するため、もう一段の値上げが必要。需要は建産機については若干回復してきたが、建設関連は期待できず、需要家の抵抗は強いが、根気よく説明の上、価格転嫁に注力していく。

厚板

- ① 当月は低水準の山積の状況下、とくに橋梁材の端境期となり大幅に減少した。数量的には最も少なく、操業も平時の3割程度であった。橋梁材はしばらくは低調で、夏ごろから徐々に増える見込みであり、また、首都圏の再開発関連の鉄骨が、ここにきて出件され始めており、今後、全体として増えていく傾向にある。ただし、厚板は輸出、エネルギー関連を中心にタイトとなっており、供給問題が再燃することが懸念され、加えて値上げが予想されることから、需要面で、どのような影響が出るのか注視していく必要がある。

一般開金鋼

- ① 各メーカーより値上げ発表の後、一応の値は切り上がったと思われるものの、需要の少ない環境の中で、ユーザーからの反応は今ひとつ盛り上がりの欠けた相場上昇となっている。客先によっては、昨年秋のトラウマがあるので、もうひとつ乗り切れない現実があるのかもしれない。しかし、頑張っ相場を上げる努力をしていきたい。
- ② 今月は前月比で営業日数が2日、13%多いのに売上で11%減、粗利で13%減となったが、よしとすべきか。巷間、昨年10～12月期に景気は上向き始めたといわれるが、原料インフレ製品デフレ状況下では実感にくい。二番底の懸念は薄らいできたものの、今月3件ものユーザーから廃業通知を受ける中で大幅な価格転嫁作業は骨が折れる。来月上旬の荷動き次第で、例年悪い第1四半期の今年の趨勢が見通せるだろう。

鋼管

- ① 単価の上昇が問題。
- ② 需要が無い時期の値上げなので、考えるべきことは多い。値上げ後の需要が落ちないことを願う。

構造用鋼

- ① 店売りを中心とした動きは、基調としては変化なく推移してきたが、ここにきて在庫調整も一段と進み、引合も増えてきた。原材料価格の上昇によるメーカーの値上げ表明を受けて、多少の先行買いの動きもあるが、需給は徐々に回復基調となってきた。紐付は自動車関連は現状堅調な動きを維持している。低迷していた一般産業機械や建設機械の部品関連に需要が回復しつつある。

その他

<鋼材全般>

- ① 仮需のみで先行きは不透明。

<金属表面処理加工>

- ① 3月は緊急対応案件を含め、物件物、紐付材と計画通り大幅増での操業となる。スポット案件も3月中旬以降、活発な発注があり、加工量増。4月以降も造船、プラント(国内・海外)向けを中心に高操業で推移しそうである。